

報告： 第一回 S・T 共催オープンゴルフ・コンペ 無事終わる。

東京都公立高等学校退職校長会

☆ 台風一過に開催

本会と爽健会(都退職校長で組織するゴルフ親睦会)との共催による第一回 S・T オープンゴルフ・コンペが去る 10 月 14 日(火)に山梨県上野原市にあるサンメンバーズ・カントリークラブで開催された。台風一過の秋晴れのもと、会場には 7 組 25 名が参集。定刻の午前 8 時、爽健会会長 小泉晴一氏(元 都立駒場高校校長)と本会会長 多田丈夫氏(元 都立国立高校校長)の両氏から挨拶。続いて、全員の紹介と競技委員長の林 善治氏(元 羽田工業高校校長)から挨拶と本日のルール説明が行われた。快晴の空をバックに全員で記念撮影をする。この日を祝うかのように、霊峰富士の全貌が見えた。

さて、このゴルフ・コンペは、本会の目的の一つである親睦のための事業として企画してほしいとの会員からの強い要望があり、常任委員会の賛同を得て開催にこぎつけたものである。初めての企画ということもあり開催を心配するむきもあったが、多くの会員並びにゴルフ愛好者のご協力で盛況裡に終わることが出来た。特に、92 回の開催実績を誇る爽健会には大変なご協力をいただいた。25 名の参加者の内訳は、爽健会会員が 13 名、本会会員が 6 名、ゲスト参加が 6 名であった。競技は 25 名がアウトコース 4 組、インコース 3 組に分かれ、午前 8 時 22 分に同時スタート。台風の影響もあって強風に悩まされながら白熱した競技が展開された。今回のコンペはハンデ戦と違い、新ペリア方式による競技のため、誰が優勝するか終わってみないとわからないというスリリングな特色があり、楽しさの中にも真剣な空気が流れた。戦いは、無事終わり、クラブ内で祝勝会が開かれた。(参考:S は、爽健会、T は東京都公立高等学校退職校長会の略)

☆ 優勝は、林 善治氏

全員、事故もなくプレーが終了。16 時、舞台は盛りだくさんの賞品が用意された祝勝会に移った。冒頭、爽健会会長の小泉氏からは、「良い企画だ。毎年、爽健会もしっかり応援する・・・」との激励の言葉。続いて、司会の多田会長から協賛いただいた日勝スポーツ取締役社長 岡田一良氏、都民互助会取締役社長 長末眞次氏、サンメンバーズ cc 取締役支配人 豊田茂良氏の紹介があり、3 氏からご挨拶をいただいた。この 3 社からは、心温まる協賛品を頂戴し、コンペに花を添えていただいた。感謝の一言である。続いて、表彰式と懇親会が賑やかに行われた。

さて、第一回の栄えある優勝者は、競技委員長を率先して引き受けてくれた林 善治氏(NE T73, 8)であった。見事優勝した林氏は、自身の寸評で「夢でかく、エイジシュートを重ねたい」との決意を語っていた。誰もが認めるダントツの実力派で第一回到相応しい記憶と記録に残る優勝であった。参加者全員が大いなる賛意を贈り、氏を讃えた。優勝の弁で林氏は、「この会が継続するよう力を尽くす・・・」と力強く語った。準優勝者は、ゲストの小町 進氏(元、東大和市職員)でベスト・グロス賞(80.0)も獲得した。小町氏は、多田会長の友人でゴルフの師匠。パブリック選手権で上位入賞の経験を持つ実力者でもある。第 3 位は、本会の事務局長の澤海富保氏であった。ゴルフは始めたばかりと聞くが、新ペリア方式が幸いしたか。多忙な中、ひとときの涼風が吹いた。17 時 30 分、戦いの余韻を残し、全員会場を後にした。

企画してから半年。猛威を振るうと報道された台風 19 号との睨めっこの強気の開催。幸運だったかもしれない。今後、様々な意見に真摯に耳を傾け、多くの会員の理解を得ながら、このコンペが末永く続くよう、心して次なる準備にかかる所存である。

終わりに、多忙な中、今回の運営委員を引き受けていただいた、平島 満氏(元、小松川高校校長)、佐治恒孝氏(元、晴海総合高校校長)、富田正次氏(元、六本木高校校長)、並びに参加者全員に心より感謝申し上げ、報告とする。(文責:覆面子)

